

5 稲を守り育てる 〈5月上旬～9月上旬〉

(2)

③ 雑草から稲を守る (除草) ^{じょそう} 〈5月中旬～9月上旬〉

田植え後、気温も高くなり、田んぼの水温・地温も暖まってくると、田んぼに雑草が生えてきます。そのため、雑草のまだ生えないうちに除草剤を散布して備えます。



背中に動力散布機を背負い、あぜ道づたいに除草剤を散布する

④ 田んぼに溝をほる (作溝) ^{さっこう} 〈6月中旬～7月上旬〉

稲の間に溝をつける作業 (作溝) は、土の中から肥料分や水分を吸収して稲の生長を助ける根が、土の中でのびのび働けるようになるためのものです。土の中の空気や温度を調節したり、有機物の分解で出てくるガスをぬくためには、きめこまやかな水管理が必要ですが、この水管理をしやすいのが溝づくりです。6月中旬から下旬にかけて、作溝機を使って、稲の列 2～3メートルおきに 15センチメートルくらいの深さの溝を掘ります。



田んぼの表面に掘られた溝 [みぞ]



溝切り機 (作溝機)。後ろの三角形をした金属のフロートで田んぼに溝を掘っていきます